

武蔵野市学習者用コンピュータ通信

第1号

発行

武蔵野市教育委員会指導課
令和2年10月

令和3年度から、市立小中学校に在籍する子どもたち一人一台のタブレット型パソコンを活用した学習が始まります。国のGIGAスクール構想を活用した一人一台のタブレット型パソコン導入、通信ネットワークの整備にあたって、今後、導入したタブレット型パソコンを本市として学習にどう生かしていくのかなど、必要な情報を、武蔵野市学習者用コンピュータ通信を通じて、保護者・地域の方を対象に、発信してまいります。

なぜ、一人一台のタブレット型パソコンを導入するのか。

近い将来、社会生活全般においてICTが活用されるようになる時代、いわゆる「Society（ソサエティ）5.0」の時代が到来すると言われています。その時代を生きていく子どもたちにとって、「生きる力」を支えるあらゆる学びの基盤である、必要な情報を取り出したり、自分の考えをまとめたりするなどの言語能力や、情報技術を手段として学習や日常生活に活用で



きるようにする情報活用能力の育成が重要です。一人一台のタブレット型パソコンを活用することで、求められる資質・能力を育み、深め、子どもたちの力を最大限に引き出すことができます。

効率よく学級全体の意見を集約したり、友達の考えを共有したりすることや、分からないことを個別にいつでも調べられるなど、主体的・対話的で深い学びを視点にした授業改善や、個に応じた学びの充実に資するものとなります。タブレット型パソコンを文具と同じようにツールとして一人一人が使うことが考えられます。

【GIGAスクール構想】とは

一人一台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたち一人一人に個別に最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する文部科学省の施策です。

令和3年度から使えるよう、武蔵野市立小・中学校に在籍する子どもたちに一人一台の「学習者用コンピュータ」を準備します。

市教育委員会では、令和3年度から子どもたち一人一人が使う学習者用コンピュータとして使えるよう、タブレット型パソコンの準備を進めています。タブレット型パソコンは、子どもたち一人一人が自ら管理する学習に必要な文具として位置付けられるものですが、今回、全台を市が用意し利用できるようにします。

学習者用コンピュータの導入にあたっての市の基本的な考え方について

これまでの本市で大切にしてきた教育実践と ICT を活用した学習活動の調和を図り、子どもたちの力を最大限に伸ばすため、「武蔵野市学習者用コンピュータ活用に関する基本的な考え方」を教育委員会で決定しました。以下は抜粋ですが、全文は、市ホームページに掲載しています。

- 学習者用コンピュータを適切かつ効果的に活用するために必要な知見を蓄積し、教職員の習熟を図るため、全市立小中学校で子どもたちがタブレット型パソコンを使用できる環境を整備し、学習者用コンピュータ活用の指針を定めます。
- ICT を適切・安全に使う資質・能力を育むため、子どもたちが自律的・創造的に学習者用コンピュータを利活用する教育に取り組みます。
- 子どもたちが自律的かつ適切に学習者用コンピュータを利用できるようにするために、保護者・学校・教育委員会の役割を定めます。

保護者、学校、教育委員会の役割を定めます。

前出の「基本的な考え方」では一人一台のタブレット型パソコンの活用にあたって子どもたちに関わるそれぞれの役割を定めています。

保護者	学校	教育委員会
各家庭において子どもたちが自律的かつ適切に学習者用コンピュータを利用できるよう、子どもたちの発達段階を踏まえた使い方等の指導を行います。	積極的に学習者用コンピュータを活用した実践を行い、効果的な活用方法を見いだすとともに課題について整理し、解決を図ります。また、子どもたちの発達段階を踏まえた自律的な管理について指導します。	学校で適切かつ効果的に ICT を利活用できるための知見の蓄積と共有、教員の研修、サポート体制の整備及び通信基盤、使用するアプリケーションソフトなどの環境整備を行います。

「保護者の役割」 例えば…

- 子どもたちがタブレット型パソコンを活用していることへの肯定的な言葉掛け。
- 「SNS 家庭ルール」を活用し、利用時間や使用場所の約束をする。
- 翌日の学校での使用に備えたタブレット型パソコンの充電の言葉掛け。
- 貸与するタブレット型パソコン以外で子どもたちが使用する ICT 機器のフィルタリング。

学校でも一人一台でタブレット型パソコンを持つ状況は、初めての経験です。学校、家庭で連携・協働しながら、学習者用コンピュータの適切かつ効果的な活用を進めていきます。

保護者の皆様におかれましては、これからご協力いただくことがあります。この通信で発信してまいりますので、今後ともよろしくお願いたします。